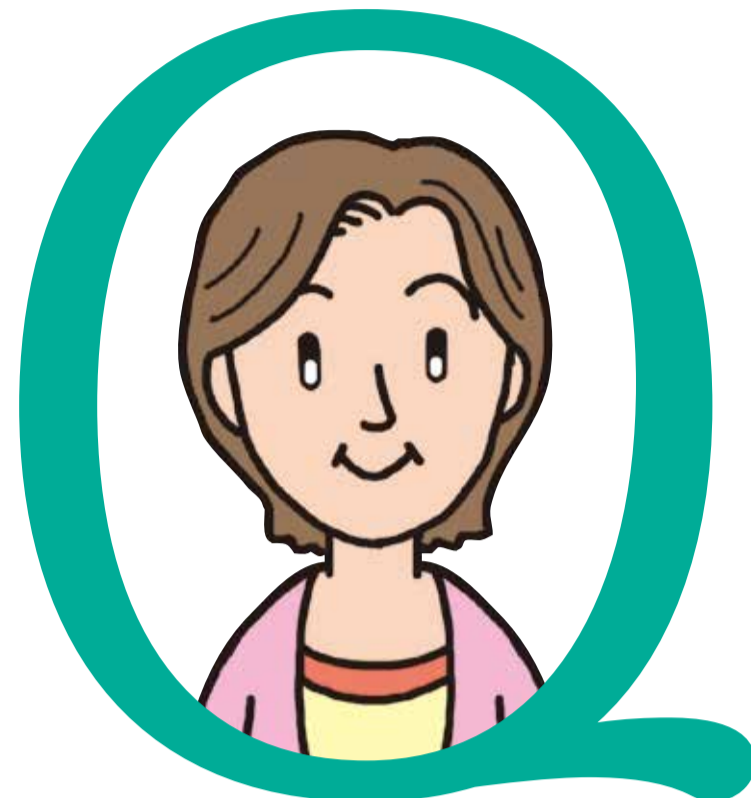
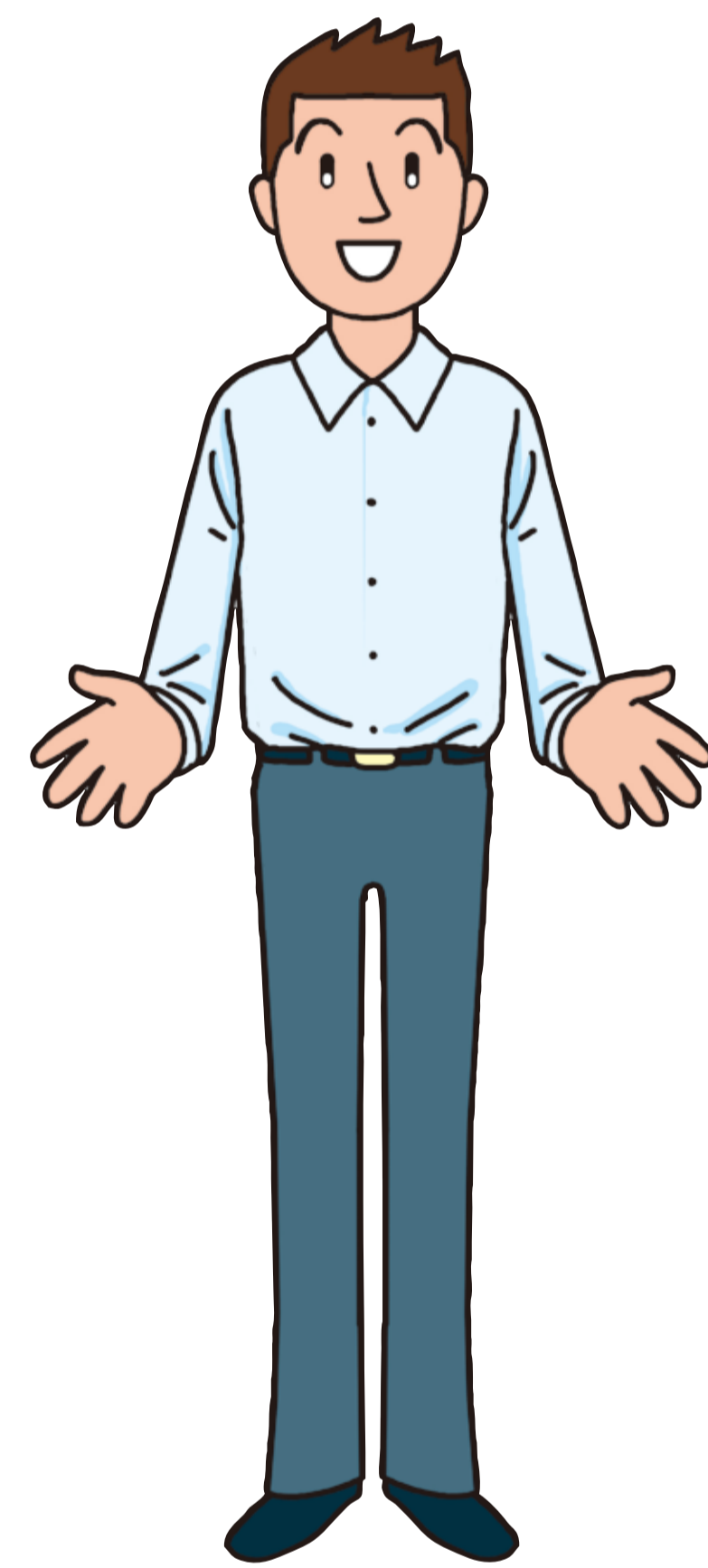


砂糖の国内生産



さとうきびとてん菜は、
それぞれの地域で
どのような役割を担っていますか？

ANSWER(さとうきび)



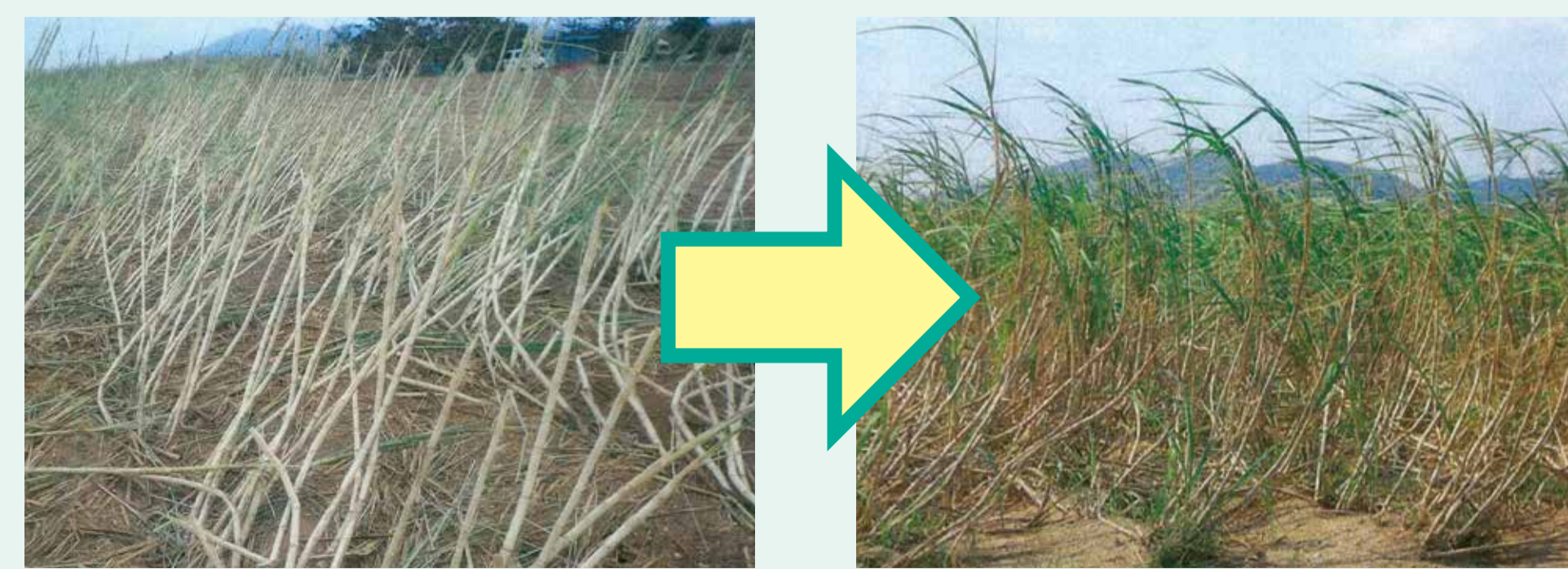
さとうきびが栽培されている鹿児島県南西諸島や沖縄県の島々は、台風の常襲地帯です。一方、高い山などもないため降水量の少ない時期もあり、干ばつになりやすい上に、耕作する場所も限られています。その中で、さとうきびは、台風の強風に倒されてもまた起き上がり、水不足が続いても雨が降れば新しい葉を出したりと、自然災害に強い作物です。このため、島の生産者にとって、さとうきびは他に代えることができない作物となっています。

また、離島で栽培されたさとうきびは、その島の製糖工場ですべて原料糖に加工されます。

さとうきびは、作付から収穫・製糖まで地域と密接に関連し、約2万2千戸の生産者と16カ所の製糖工場は地域経済や雇用確保に大きな役割を果たしています。

台風能耐る「さとうきび」

一度、台風の風で葉がなくなっても再生します。
台風の来襲が多い鹿児島県・沖縄県では重要な作物！！



被災を受けた「さとうきび」

葉が再生中の「さとうきび」

ANSWER(てん菜)

北海道の生産者にとって、てん菜は、小麦、ばれいしょ、豆類とともに「^{りんさく}輪作作物」として位置づけられています。これらの作物を順次作付することで、繰り返し同じ作物を栽培すると発生する連作障害を防ぐことができます。

また、てん菜は冷害に強く、生産者にとって安定収入が得られる作物です。

てん菜は、作付から収穫・製糖まで地域と密接に関連し、約7千戸の生産者と北海道内8カ所の製糖工場は地域経済や雇用確保に大きな役割を果たしています。



これらの地域は、わが国の北と南西の国境に近く、多くの離島は広大な200海里水域を形成しており、人々が暮らし、砂糖産業が成り立っているからこそ国土が守られているともいえます。

輪作とは？

同一耕地に異なる種類の作物を交代に繰り返し栽培すること。



メリット

収量の低下を防ぐ

病害虫発生の抑制

複数の作物を作ることにより、作業ピークをずらせる

輪作パターン 地域によって輪作パターンは異なります。

